



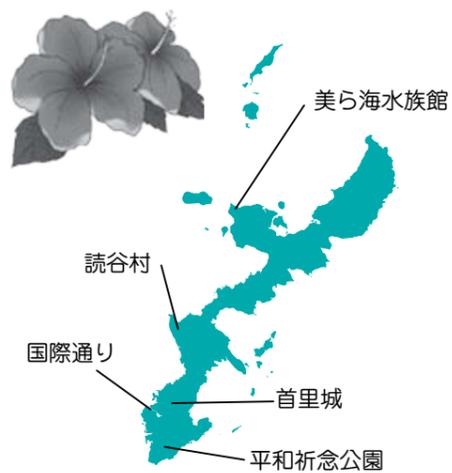
▲美ら海水族館で沖縄の海の素晴らしさや大切さを学びました



- ①
 - ②
 - ③
1. 読谷村の子どもたちが沖縄の伝統芸能エイサー（踊り）を堂々と披露
 2. 子ども同士、遊びの交流で笑顔があふれます
 3. 全身で沖縄の海を満喫！

ひと・自然・出会い

沖縄の空に子どもたちの笑い声が響きました。読谷村の子どもたちと一緒に遊び、バーベキューで食を共にし、村の子どもたちは「おもせーな」、読谷村の子どもたちは「うむさん」と互いのお国言葉で笑い合います。「また会おうね」「福島に遊びに行くよ」とやくすく（約束）する姿も。いつか再会できる日を願って……。



沖縄とまでいな時間

4日間の旅を終え、少しくましく見えたのは焼けた肌のせいだけではないはず。

道中、友達と村の思い出を話す姿も。沖縄を通して見えてきた「ふるさと」もありました。

今回の旅の報告は、10月の村文化祭で子どもたちが発表する予定です。ぜひ、子どもたちの生の声をお聞かせください。



世界にひとつしかないオリジナルシーサーが完成！



▲戦後復興の象徴「奇跡の1マイル」国際通りを散策しました

沖縄を感じる

魔よけとして各家庭に飾られるシーサー作りを体験し、沖縄文化に触れた子どもたち。

最終日には、班に分かれて那覇市国際通りを散策。事前に計画していても、魅力的なお店についつい寄り道。そんな臨機応変さも大切(?)な学びです。



▲2日目の宿泊先読谷村「むら咲むら」にて沖縄文化を体験



▲戦時中、避難場所等で使われていたガマ（自然洞窟）を訪ねました



- ①
 - ②
 - ③
1. 国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」
 2. 平和祈念公園のふくしまの塔に献花
 3. 嘉手納空軍基地を一望できる「道の駅かでな」の前で説明を受けました



沖縄 までの旅 2015

命の大切さから 平和を学ぶ

多くの犠牲者を出した沖縄戦から70年。戦争当時の沖縄から、戦後これまでの沖縄について学びました。

目も、耳も、ふさぎたくなるような悲しい話でしたが、子どもたちは向き合いました。

「未来はきっと、平和がいいに決まっている。だから学ぶ」



▲戦争体験者の手記を読む団員

